

バトン

「命と物のバトンリレー」

4年 Y・Xさん

私には生まれた時、買ってもらった枕がある。だいぶ古くなったが、今も大切にしている。古くなくても、すててしまっ気にならないのは、なぜかわからないが、その枕があれば、昔から気持ちよくねられた。きっと、お父さんとお母さんが気持ちをこめてえらんでくれたからだ。そのことを思うと、枕がより大切になった。

柳さんは、「年を取ると何でも若い人にわたしたくなるんや」と言っていたけれど、それは、人の記おくから自分の思いが消えてほしくないからかな、と私は思った。人は年を取ると自分にとって大切な物は、若い人たちにうけついでもらいたくなる。おばあちゃんもひな人形を、柳さんはマグノリアの山をうけついでもらいたかった。その気持ちは年を取らないと、分からない気持ちでもある。けれど、大切な物は小さい子にもあると思う。でも、すべての物がすべての人にとっていい思い出になるとはかぎらない。圭のおばあさんが大切にしていたひな人形は、ハッサンのお母さんにとってはイランとイラクの戦争を思い出させるいやな物である。

戦争では、人にとって大切な物だけでなく、大切な命も失われる。大切な物をなくすだけでもつらいのだから、大切な命を失われることはさらに何十倍もつらいだろう。ハッサンのお母さんはイランとイラクの戦争を経験している。戦争よりよくないことはないと思う。けれど、人は、その戦争をくり返している。今もロシアとウクライナの戦争がつづいている。たくさんの方が大切な物を失い、命を落としたりしている。

私は、人の命を助けるためにお医者さんになりたい。これから、私のバトンにもう一つ願いを加えたい。それは、「永遠の平和」である。これは、私たち人間が守っていかないといけないバトンリレーでもあると思った。